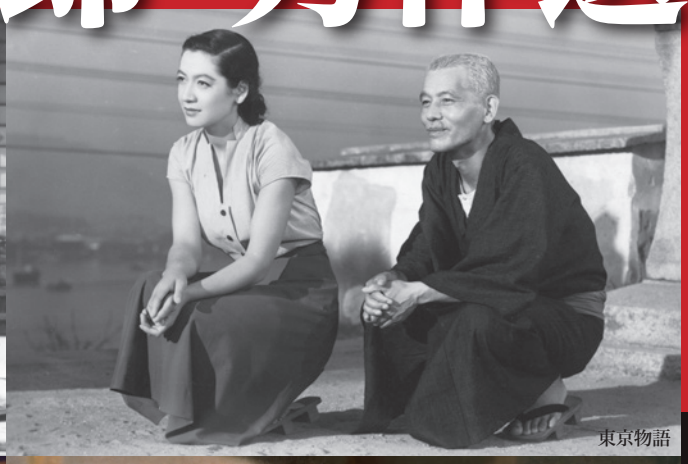
第10回 コンパルホール映画上映会　フィルムマラソン

コンパルホール
開館35周年記念

# 小津 安二郎 秀作選

麦秋


東京物語

彼岸花

秋刀魚の味

**巨匠、小津安二郎監督の代表作を35ミリ・フィルム上映！**

## 上映作品

**麦秋**（ばくしゅう）
1951年（昭和26年）　白黒・スタンダード／2時間05分
第25回「キネマ旬報」ベストテン第1位
出演　原節子、笠智衆、淡島千景、三宅邦子、菅井一郎、東山千栄子、杉村春子 他

**彼岸花**（ひがんばな）
1958年（昭和33年）　カラー・スタンダード／1時間58分
第32回「キネマ旬報」ベストテン第3位
出演　佐分利信、田中絹代、有馬稲子、山本富士子、久我美子、笠智衆、佐田啓二 他

**東京物語**（とうきょうものがたり）
1953年（昭和28年）　白黒・スタンダード／2時間16分
第27回「キネマ旬報」ベストテン第2位
出演　笠智衆、東山千栄子、原節子、杉村春子、山村聰、三宅邦子、香川京子 他

**秋刀魚の味**（さんまのあじ）
1962年（昭和37年）　カラー・スタンダード／1時間53分
第36回「キネマ旬報」ベストテン第8位
出演　岩下志麻、笠智衆、佐田啓二、岡田茉莉子、三上真一郎、中村伸郎、岸田今日子 他

## 日時

**2022年 1月8日[土]**

| | |
|---|---|
| 麦秋 | 10:00（12:05終了） |
| 東京物語 | 14:00（16:16終了） |
| 彼岸花 | 16:30（18:28終了） |
| 秋刀魚の味 | 18:40（20:33終了） |

8日(土)13:05～13:55
**Cinema Talk**
おはなし
衛藤　賢史 氏（古典芸能・映画論専門）
田井　肇 氏（シネマ5支配人）

**2022年 1月9日[日]**

| | |
|---|---|
| 麦秋 | 9:30（11:35終了） |
| 東京物語 | 12:30（14:46終了） |
| 彼岸花 | 15:00（16:58終了） |
| 秋刀魚の味 | 17:10（19:03終了） |

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、両日とも会場での軽食販売は行いません。

## コンパルホール 文化ホール [1F]

**1日鑑賞券 1,400円** 4作品鑑賞可
**（日にち指定販売/全席自由）**

チケット発売：令和3年11月1日(月)～
チケット取扱：コンパルホール1階受付(販売時間9:00～17:00)
トキハ会館／ヌトウ南海堂／シネマ5

お問い合わせ　コンパルホール　TEL.097-538-3700
〒870-0021 大分市府内町1丁目5番38号

[主催] コンパルホール／国立映画アーカイブ
[特別協力] 文化庁／(社)日本映画製作者連盟／全国興行生活衛生同業組合連合会／大分県興行生活衛生同業組合／シネマ5
[後援] 大分合同新聞社／NHK大分放送局／OBS大分放送／TOSテレビ大分／OAB大分朝日放送／エフエム大分／J:COM 大分ケーブルテレコム／ゆふいんラヂオ局

**【鑑賞チケットについて】**
●払い戻し、交換、再発券はいたしません。●各日250枚限定販売です。1日通して全作品4本をご覧いただけます。(シネマトーク含む)●チケット記載の指定日に限り、チケット提示で再入場が可能です。(1枚で2日間をまたぐ利用はできません。)●各日通してお一人様でご利用ください。複数人での使い回しはご遠慮願います。●定員に達した回は、ご入場をお断りすることがございます。お早目にご入場ください。●4歳から入場できます。年齢にかかわらずチケットはお一人様一枚ご用意ください。(車イス席は同額1,400円で各日限定4席)

**【新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのご理解・ご協力のお願い】**
●館内に滞在中は、必ずマスクの着用をお願いします。「咳エチケット」「手指アルコール消毒」「検温」「チケットへの氏名・連絡先記入」等へご協力をお願いします。また、おしゃべりはできる限りお控えいただきます。●文化ホール内での飲食はご遠慮願います。(館内の食事スペースをご利用いただけます。※予定)●上記の他、コンパルホール感染防止対策については、公演チラシ裏面をご覧ください。チケットをお買い求めの際は、記載の注意事項をご覧いただき、ご同意のうえでご購入ください。●今後の新型コロナウイルス感染状況によっては、内容変更や中止となる場合がございます。予めご了承ください。

詳細はチラシ裏面をご覧ください。

COMPAL HALL 2021 1986 35th ANNIVERSARY

# 第10回 コンパルホール映画上映会 フィルムマラソン 小津 安二郎 秀作選

**小津 安二郎** ▶ 1903年（明治36年）12月12日、東京・深川生まれ。1923年、松竹・蒲田撮影所に入社。1927年（昭和2年）に監督デビュー。間もなく映画はサイレントからトーキーに移行するが、トーキー時代に入ってもサイレント映画をつくりつづけ、『生まれてはみたけれど』『出来ごころ』『浮草物語』などの傑作を連作する。1936年の『一人息子』からトーキーを手掛けるが、1937年に招集を受け入隊。中国、シンガポールなどで従軍し、終戦後、1946年2月に帰還する。戦後、1949年（昭和24年）の『晩春』から、原節子を主演に迎え、次々と傑作を連発。「小津調」と呼ばれる独特のタッチで、家族・夫婦を描きつづける（その全ての脚本を野田高梧が書いている）。カメラを低い位置に据えるローアングル撮影、人物や物の相似形の配置、棒読みのようなセリフ回し、無意味な空（から）ショットの挿入、独特の編集、笠智衆ら常連俳優の起用等々、小津の際立った作家性は、世界中のさまざまな映画監督から崇拝されるものとなり、今や映画史上最高の監督に位置付けられている。1963年、満60歳の誕生日12月12日に死去。北鎌倉・円覚寺にある墓には「無」の一文字が刻まれている。

## 麦秋 ばくしゅう

1951年（昭和26年）　松竹（大船）
白黒・スタンダード／2時間05分
第25回「キネマ旬報」ベストテン第1位

［スタッフ］

| | |
|---|---|
| 脚本 | 野田高梧 |
| 脚本・監督 | 小津安二郎 |
| 撮影 | 厚田雄春 |
| 照明 | 高下逸男 |
| 録音 | 妹尾芳三郎 |
| 音楽 | 伊藤宣二 |
| 美術 | 浜田辰雄 |

［出演者］

| | |
|---|---|
| 間宮紀子 | 原節子 |
| 兄　康一 | 笠智衆 |
| 田村アヤ | 淡島千景 |
| 康一の妻 史子 | 三宅邦子 |
| 父　周吉 | 菅井一郎 |
| 母　志げ | 東山千栄子 |
| 矢部たみ | 杉村春子 |
| 息子　謙吉 | 二本柳寛 |
| 安田高子 | 井川邦子 |
| 田村のぶ | 高橋豊子 |

［解説］「ストーリーよりも輪廻とか無情を描きたいと思った」とは小津安二郎の監督自身の言葉である。娘の結婚と、父母の郷里への隠棲でゆるやかに崩壊していく大家族、その別れの過程が小津監督独特の豊かなユーモアと厳密なスタイルで、あたかも自然のように描かれている点に特徴がある。これは戦後に脚本家、野田高梧とのコンビを復活させ、以後遺作まで二人の共同作業を続けさせることとなった『晩春』（1949）の主題をより広く展開したものであり、個々の人物が多彩になったぶん、作品世界の陰影が豊かになっていると言えるだろう。笠智衆、三宅邦子、菅井一郎、東山千栄子らがはまり役とも言える人物造型を見事に演じるとともに、杉村春子は息子の再婚相手に原節子を迎え狂喜する母親の姿を、絶妙な呼吸と身のこなしで表現してみせた。「余白を残す芝居」を心掛けたと言う小津監督の演出の妙は、繰り返し見るごとに明らかとなるだろう。物静かな表面を支える作品の底が厚いのである。

## 東京物語 とうきょうものがたり

1953年（昭和28年）　松竹（大船）
白黒・スタンダード／2時間16分
第27回「キネマ旬報」ベストテン第2位

［スタッフ］

| | |
|---|---|
| 脚本 | 野田高梧 |
| 脚本・監督 | 小津安二郎 |
| 撮影 | 厚田雄春 |
| 照明 | 高下逸男 |
| 録音 | 妹尾芳三郎 |
| 音楽 | 斎藤高順 |
| 美術 | 浜田辰雄 |

［出演者］

| | |
|---|---|
| 平山周吉 | 笠智衆 |
| 妻　とみ | 東山千栄子 |
| 嫁　紀子 | 原節子 |
| 金子志げ | 杉村春子 |
| 平山幸一 | 山村聰 |
| 妻　文子 | 三宅邦子 |
| 妹　京子 | 香川京子 |
| 沼田三平 | 東野英治郎 |
| 金子庫造 | 中村伸郎 |
| 平山敬三 | 大坂志郎 |

［解説］ この作品を作るにあたって、小津監督は「親と子の成長を通じて、日本の家族制度がどう崩壊するか描きたかった」と語っている。戦後から8年しか経ていない当時、まだ〈高度経済成長〉や〈核家族〉といった表現がなされていない頃の作品である。尾道に住む老夫婦が、医者の長男や美容師の長女が住む東京に出かける。幸福そうな家庭も経済的には苦しそうである。東京で暮らす昔の同僚も親子関係に不満をもらす。子供たちが計画した熱海への旅行も疲れただけ、唯一の救いは次男の戦争未亡人との一時であった。帰郷の途中に立ち寄った三男の下宿で気分を悪くした母は、尾道へ帰って間もなく死んでしまった。駆けつけた子供たちがあわただしく帰った後、残された老父はしみじみと孤独を噛みしめるのだった。1957年のロンドン映画祭での上映、翌年の英国映画協会（BFI）サザーランド賞受賞が、世界の小津ブームのきっかけとなった。

## 彼岸花 ひがんばな

1958年（昭和33年）　松竹（大船）
カラー・スタンダード／1時間58分
第32回「キネマ旬報」ベストテン第3位

［スタッフ］

| | |
|---|---|
| 原作 | 里見弴 |
| 脚本 | 野田高梧 |
| 脚本・監督 | 小津安二郎 |
| 撮影 | 厚田雄春 |
| 照明 | 青松明 |
| 録音 | 妹尾芳三郎 |
| 音楽 | 斎藤高順 |
| 美術 | 浜田辰雄 |

［出演者］

| | |
|---|---|
| 平山渉 | 佐分利信 |
| 清子 | 田中絹代 |
| 節子 | 有馬稲子 |
| 久子 | 桑野みゆき |
| 三上文子 | 久我美子 |
| 周吉 | 笠智衆 |
| 谷口正彦 | 佐田啓二 |
| 近藤庄太郎 | 高橋貞二 |
| 佐々木初 | 浪花千栄子 |
| 長沼一郎 | 渡辺文雄 |
| 佐々木幸子 | 山本富士子 |

［解説］　娘が勝手に決めてきた結婚相手に腹を立てる頑固な父親の姿をユーモラスに描く、小津安二郎監督初めてのカラー作品。小津監督の言によれば、父がなじみにしている京都の旅館の娘役として大映から招いた看板女優、山本富士子を活かした明るい映画にしたいという会社の方針もあって、色彩映画に手をつけたそうである。小道具や着物ひとつひとつに気を配り、赤が映えるアグファ・カラーをネガフィルムに用いて、色をはぶき、色があって色がないような、つまりは「色即是空、空即是色」の心持ちで撮影に臨んだと語っている。ドラマチックな展開を極力排除し、さりげない会話のやりとりの中に人間のエゴを垣間みせるこの監督特有の手法が、あでやかな色彩とともに、見るものの心に染み込んでくる。母娘を演じた浪花千栄子と山本富士子による京都弁の掛け合いもまた愉しい。里見弴（さとみとん）は小津監督の敬愛する小説家で、原作は小津監督の映画化を予定して書き下ろされたものである。

## 秋刀魚の味 さんまのあじ

1962年（昭和37年）　松竹（大船）
カラー・スタンダード／1時間53分
第36回「キネマ旬報」ベストテン第8位

［スタッフ］

| | |
|---|---|
| 脚本 | 野田高梧 |
| 脚本・監督 | 小津安二郎 |
| 撮影 | 厚田雄春 |
| 照明 | 石渡健蔵 |
| 録音 | 妹尾芳三郎 |
| 音楽 | 斎藤高順 |
| 美術 | 浜田辰雄 |

［出演者］

| | |
|---|---|
| 平山路子 | 岩下志麻 |
| 父　周平 | 笠智衆 |
| 兄　幸一 | 佐田啓二 |
| 兄嫁秋子 | 岡田茉莉子 |
| 弟　和夫 | 三上真一郎 |
| 河合秀三 | 中村伸郎 |
| 河合のぶ子 | 三宅邦子 |
| 周平の部下 坂本 | 加東大介 |
| バーのマダム | 岸田今日子 |
| 佐久間先生 | 東野英治郎 |
| 娘　伴子 | 杉村春子 |

［解説］ この作品の構想を練っていた1962年2月、生涯独身であった小津は生活を共にしていた最愛の母を失った。その数日前、小津は映画人で初めての芸術院会員となり、喜びを分かち合ったばかりであった。戦後、小津の復活を知らしめた『晩春』（1949、笠智衆・原節子主演）以来、初老の父と独身の娘の関係がこの作品でも踏襲されている。身の周りの世話を娘に頼り、娘の行く末を考えもせずにいた父が、旧制中学時代の恩師と中年の娘がしがないラーメン屋を営んでいる光景を目にし、人生の孤独を感じつつ娘を嫁がせるのだった。恩師の娘を演じた杉村春子は、演技指群の厳しかった小津ですら何も注文をつけなかったといわれているが、無言の立ち居振る舞いはこの作品のテーマを見事に表現している。これまでになく人生の無惨さを描いたこの作品の翌年、小津は端正な作風そのままに、還暦を迎えた12月12日、亡き母のもとへ旅立った。

## 新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのご理解・ご協力のお願い

コンパルホールでは、（公社）全国公立文化施設協会作成のガイドラインに沿って、新型コロナウイルス感染拡大防止に十分配慮し公演を実施いたします。ご来場前に以下の項目をご確認いただき、ご承諾くださいますようお願いいたします。

【入場制限】以下に該当するお客様のご来場はお控えください。

- ●平熱を超える発熱　※平熱＋0.5℃以上の発熱があると認められた際は、ご来場をお断りいたします。（発熱＝37.5℃以上を目安としてください）
  咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐等の症状があるお客様
- ●新型コロナウイルス感染症陽性とPCR検査で判定された者との濃厚接触があるお客様
- ●過去2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触があるお客様

【ご来場のお客様へのお願い】

- ●館内に滞在中は、必ずマスクのご着用をお願いします。また館内での大声はお控えいただき、咳エチケットにご協力をお願いいたします。マスクを着用されていないお客様はご入場をお断りする場合がございます。
- ●ご入場時に、検温をさせていただき、アルコールで手指消毒をお願いします。
  ※アルコールに対してアレルギーをお持ちの方は、来館時に係員へご相談ください。
- ●基礎疾患をお持ちの方、妊娠中の方、未就学児童をお連れの方は関係機関の情報を参考にしていただき、慎重なご判断をお願いいたします。
- ●対面での会話は控え、社会的距離の確保に努めてください。また、文化ホール内でのお食事はお控えください。
- ●ご入場時に氏名や連絡先を確認いたします。新型コロナウイルス感染症の感染発生が疑われる場合には、これらの情報が保健所等の公的機関へ提供されることがあります。
- ●スタッフはマスクを着用し、可能な限り発声を控え、社会的距離を保ちながらのサービス提供とさせていただきますので、ご理解をお願いいたします。
- ●館内は空調設備により機械的に換気しております。換気能力を維持するため、施設内の窓は閉鎖しております。
- ●クロークサービスはいたしませんので、大きなお荷物のお持ち込みはお控えください。
- ●出演者等への声援、プレゼントや差入、出待ち・入待ち等はお控えください。
- ●厚生労働省の新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）をご活用ください。

最新情報はコンパルHPをチェック！

今後の新型コロナウイルス感染状況によっては、内容変更や中止となる場合がございます。予めご了承ください。